

竹でインフル撃退!

高知市に来秋工場予定 タケックス・ラボ

【大阪支社】竹を原料とした商品の研究販売を行うタケックス・ラボ（大阪府吹田市、清岡久幸社長）が、鳥取大学付属の研究センターとの共同研究で分かった。実験では、効果は約30日間持続。同社によると、天然由来を主成分とする市販の消毒剤などに、これほど効果が持続するものはないという。

同社は2002年設立。

衛生製剤に抗ウイルス

鳥取大と共同研究で判明

竹の表皮や繊維を新素材とし、10月からは全国のドラッグストアでも販売される。竹の表皮や繊維を新素材とし、10月からは全国のドラッグストアでも販売される。竹の表皮や繊維を新素材とし、10月からは全国のドラッグストアでも販売される。

「クリーン」はモウソウ。同大学で行った実験で、抗ウイルス効果が高い。ウチクの表皮からの抽出物は、「クリーン」1%、アルコールが数分で揮発する。これまでに食品や介護用品に採用。3億個のウイルスは7個、パソコンなどに噴霧しておけば効果が期待できる。新しい、新型インフルエンザにも効果があるという。



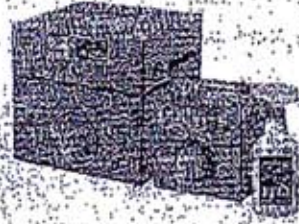
「高知で竹のビジネスモデルをつくりたい」と話す清岡久幸社長（大阪府吹田市のタケックス・ラボ）

同社は来秋には高知市内で工場を稼働する予定。清岡社長は「インフルエンザにまで効果があつたことは、20年間研究してきた成果としてうれしい。高知でビジネスモデルをつくり、全国に発信していきたい」と意気込んでいる。

（西村大典）

竹成分入り殺菌剤

タケックス・ラボ（大阪府
吹田市、清岡久雄社長、06
・6821・2554）の竹
成分入り殺菌剤「タケックス



乾燥後も鳥インフル抑制

グリーン字」が、乾燥後
も鳥インフルエンザウイルス
繁殖を抑える効果があること
が鳥取大学との共同研究で判
明した。アルコール消毒剤は
アルコールが揮発するまでの



殺菌間しか持たないのに対
し、タケックスグリーンは時
間が経過してもウイルスの繁
殖を抑えられる。
実験では、乾燥したタケッ
クスグリーンに鳥インフルエ

タケックス・ラボ

ンザウイルスを混ぜ、感染力
を保持したウイルスの数を測
定。乾燥から90日後でも99・
9％以上のウイルスが感染力
を失っていた。

エレベーターのボタンやつ
り革など実際の使用環境で
は、人の手が触れることで殺
菌剤がなくなり、1カ月の効
果持続は難しいが、「アルコ
ールに比べ効果持続や塗布回
数の軽減が見込める」（清岡
社長）としている。秋以降の
インフルエンザ流行期に向
け、アビールを強める考え
だ。



タケツクス・ラボ社長

清岡久幸さん
(46)

仕事人

証明された抗ウイルス効果持続

『タケツクスクリーン』は孟宗竹から抽出したエキスをを使用した環境衛生用製剤。

一般的なウイルス用消毒剤に使われるエタノール製剤が、数分間しか抗ウイルス効果が持続しないとされているのに対し、7月下旬、タケツクスクリーンを乾燥させたあとも、効果が30日間持続することが鳥取大学との共同研究で確認された。

「鳥取大学の鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター（伊藤壽啓センター長）との共同研究で実証できました」と製品の優位性に自信を深めている。

清岡さんは、父が竹工房を営んでいたことで、幼いころから竹に囲まれて育った。

「竹はウイルスや腐敗菌、食中毒菌などの抑制効果があることを小さいころから肌で感じていました」という。

1986年にO157による集団食中毒が堺市で発生。当時、研究を依頼していた北里大学で、竹抽出エキスの抗菌効果などが認められ、注目された。

2002年、フードテックス（現タケツクス・ラボ）を大阪府吹田市に設立し、竹を使った安全な食品添加物や抗菌剤、建材な

どの商品開発を始めた。

今年5月には新型インフルエンザが流行。タケツクスクリーンの販売は昨年比50%増加、多くの受注残も抱えた。「企業の備蓄用にも採用されました。今回、実証された持続性で一段と弾みがつきます」

10月初旬にOEM（相手先ブランドによる生産）供給で森下仁丹のメディケア除菌・消臭スプレーとして販売される。

「業務用に加え、一般消費者にも浸透させたい」と期待する。

（清水孝司）